

矢祭子ども司書をめざす皆さんへ

小学生や中学生が友だちにいろいろな本を読むようにすすめたり、図書館の本の貸し出しの仕事を学んだりして、地域の読書活動を広める役割をはたす「子ども司書」という資格制度が全国ではじめて矢祭町でスタートしたのは、平成二十一年（二〇〇九年）のことでした。

それから毎年、この子ども司書の講座を受けて、子ども司書の資格を持つようになった子どもたちが途絶えることはなく、ずいぶん多くの子ども司書が生まれました。

そして、十四期目になる今年も四年生と五年生合わせて五名が受講することになったのですね。

矢祭町の子どもたちは、最近少なくなりつつあって、ちょっとさびしいですが、人数は少なくても、子どもたち一人ひとり、みんな元気に育っているので、安心です。

小学校の児童数が少なくなっているなかでも、子ども司書の受講生が五名いるということは、町の将来への希望のしるしになります。なぜなら、人数が少なくても、一人ひとりが決められたことだけでなく、自分を精いっぱい成長させて、自分のためにも町のためにも頑張ろうとする心意気が、そこに見られるからです。

子ども司書講座での学びは、学校でのふだんの学習とは違った面で、自分の心を豊かにすると思います。これから始まる盛沢山の講座を、大いに楽しんでください。

令和四年五月二十八日

作家 柳田 邦男